

【西区】教壇から「おやじ」が、中学生に向けたメッセージを伝えます。類似中学校(越後修校長、八百五入)の生徒の父親でつくる「平成おやじの会」が、「父の日」の十六日の日曜参観で、自らの体験を交えて職業観などを語る特別授業を初めて行う。

同会は二〇〇〇年に発足、会員は約五十人。校内の修繕をはじめ、バレー、野球といった部活動の試合の相手を務めるなど、汗を流す父親の背中を生徒に印象づけてきた。

今回、学校側が、「親子で話し合うきっかけになれば」と、総合学習の時間を利用し、午前九時五十五分から、三十分間の特別授業を依頼した。今春の学校週五日制の完全実施に伴い、関心が高まる地域と学校の連携強化もねらった。

同会は依頼を快諾。一

# 日曜参観は おやじが先生

## 琴似中で16日

一三年まで全一十一学校の授業を四、五十代の会員二十六人が分担して担当する。

テーマは「おやじからのメッセージ」。仕事の苦労話や中学生の時の思い出、若者への苦言など、一人ひとりの「おやじ」によって個性豊かな授業が期待できそうだ。

現在、会員は原稿を書くなど準備を進めている。めったに立つことのない教壇だけに、緊張しそう、との声もあるが、自らも教壇に立つ建築士の牛田健一会長は「父親のひたむきな姿や思いを伝える場になりたい」と意気込んでいる。

## 職業観語り苦言も

